

北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金



会報



<谷戸の池の現在 水位は低いままながら、奥の堰堤に植生 2019年9月撮影>

2019年10月 NO.40

台峯の現状と今後

目次

■ 台風15号の影響、谷戸の池の現状、整備工事の今後	2	■ 台峯の周辺⑱ 『遠足の途』	10
■ 『鎌倉市の蝶』 浅野勝司さん	7	■ 「緑の洞門」その後	11
■ 鳥の名前よもやま噺⑤ サシバ	8	■ 活動記録・会計報告	11
		■ カレンダー、会員の集いなど	12

台風 15 号の影響、谷戸の池の現状、整備工事の今後

北鎌倉(山ノ内)側の斜面林(保全配慮地区)の保全が正式に決まるなど、台峯緑地の買収、保全は順調に進んでいます。2021 年春の緑地の開園(供用開始)に向け、整備工事あと一年半ほどを残すのみとなりました。

基金では鎌倉市公園課との現地視察、庁舎での面談を行っております。しかしいくつかの問題点も残されており、今後も基金は鎌倉市公園課との話し合いを重ねていく予定です。

●台風の被害

9月8日の台風15号は市内全域に大きな被害をもたらしました。台峯でも散策路沿いが倒木で数箇所ふさがれましたが、基金や公園課の対応で、とりあえず歩けるようになりました。

- 1.今までの例と同じく、斜面の倒木はそのまま放置されることとなります。とは言え、木が倒れることで周囲が明るくなり、生態系としては良い影響も期待されます。
- 2.今回、最も大きな被害があったのは谷戸の池の下流側で土砂崩れが発生し



写真1

水路がふさがれたことです。このため谷

戸の池の下に大きな水溜りが発生(写真1 この頁左下)、水路が湿地側を迂回して流れるようになっています。

- 谷戸の池の整備工事後の様子(依然として水位は低いままです。写真2)



写真2

- 1.池の落ち口から水が排水されず、脇から漏るように僅かな水が出ている(写真3.4)



写真3, 4

公園課の説明によると、年月と共に碎石の間にゴミが詰まって、予定通りに

水が流れるだろうとのことですが、水が漏れているように見えます。

工事による池の水漏れや池底の湧水量の変化を調べるため、基金では池の流入部と流出部の水量調査をしていますが、今後も継続していきます。

2.水路の導水管(ジャバラ管)について

大雨の時など、泥を池の中心部に導くため(詳細は後述)の管ですが、管の口径が小さいため、基金の見回りでは、ゴミが詰まったり、水だけで泥が流れないなど大雨時には充分対応できないことが確認されました(写真5)。



写真5

3.土留めの設置について

当基金の要望どおりに設置してくれました(写真6)。



写真6

●散策路の整備は来年度に

散策路の拡幅について:道幅を昔の道幅に拡幅するはずでしたが、草刈しかされていません。来年度考えるとのことでした(後述)。昔の人が設置したヒューム管はまだそのままでしたが(写真7)、撤去して安全な橋を作るそうです。



写真7

●自然の復活

1.堤防の土手に植物が復活(オオイヌタデの花が満開 写真P.6)

土がむきだしだった堤防の土手に、オオイヌタデが一面に生えてきました。

2.珍しいタコノアシ(野草)が生えてきた(写真8)

休耕田や河川敷に生える植物ですが、県内でも分布が限られており、市内ではここも含め2例目だと思われます。



写真8

堤防の工事によって湿地の泥が動いて発芽したと思われます。

3.ハンノキの芽生え(写真9)



写真9

池の堤防の工事で数本のハンノキが犠牲になってしまいましたが、日当たりが良くなったせいでハンノキの種子が発芽したらしく、かなりの数の稚樹が育っていました。

4.水路にヨシノボリ(ハゼの一種)復活か?

谷戸の池の下流部の水路(シジミがいる場所)では、10年以上前くらいまで、ヨシノボリの稚魚が見られましたが最近では観察されていませんでした。谷戸の池のヨシノボリ(同じヨシノボリでも様々な種類があるが…)は、ヨシノボリの中でも特に貴重な種類といわれています。今年の夏、かつてのヨシノボリと同じ種類かどうかはわかりませんが、久しぶりに多くの稚魚が見られました。

5. 工事後も健在だった池のカメ

今まで、谷戸の池には、在来種のカサガメやイシガメが観察されていますが、池の工事後も、数匹のカメを見えています。移入種のアカミガメに入れ替わってはいないか確認したいと思います。

●今年度の整備工事予定(2019年11月～2020年3月の予定)

1.台風への対応

台峯緑地の倒木の処置は住宅地周辺が優先されるので、3月頃までかかるかもしれないとのことです。

2.山崎小学校裏の整備

山崎小学校裏の「子どもの家」付近の水路(以前、宅地造成に備えて作られた巨大なU字溝)沿いに転落防止の柵を設置します。

3.山側の散策路の整備

遅れている山側の散策路(基金で歩いている散策路)の整備の詳細は下記です。

- ① 危険箇所(水路沿いなど)には転落防止の柵を作る。
- ② 散策路の一部を拡幅整備(山側から崩れている土砂を撤去して道を平



らに修復 写真10)。

写真10

- ③ コンクリート製の古いヒューム管は撤去して、安全に渡れるような整備をする。
- ④ 台風後の倒木処理を機会に、水路沿いの倒れそうな木(上記②の箇所など)を切りたい。

⑤ 緊急時の車両侵入路(工事用仮設路)への進入禁止のチェーン柵を設置。

⑥ 基金の“歩く会”で使っている一部の水路沿いの道と、北鎌倉女子学園のグラウンドの排水路上の道(コンクリートの平板でおおわれている部分)に、進入禁止の柵を設置する。

4. 谷戸の池周辺

池の堤防に侵入できないよう、柵を補強する。

5. 工事用車両の進入について

台風後の倒木を撤去するため、工事用車両を車両進入禁止となっている散策路の一部(北鎌倉女子学園のグラウンドの排水路まで)に進入させたい。そのための道の整備のため、現在の散策路(谷戸の池の下の湿地の散策路)の一部から土を移動したいので了承して欲しい。

6. その他の木の伐採について

尾根沿い、斜面の散策路など、今回の台風で倒れそうになっている木が、何ヶ所かあるので伐採したい。

7. 道標について

3箇所道標を立てる。

8 管理棟(山ノ内配水池側)について

2021年3月末からオープン予定。
正式な柵を設置する。

● 工事に対する基金からの提言

1. 竹林の“根止め”

竹林が拡大し始め、散策路の一部に竹林からの竹の侵入が見られるようになっていきます。今のうちに竹林と散策路の境界の土中に“根止め”の板を打ち込む

などの対策を要請しました。

2. “谷戸の池”流出口の水漏れ対策と水抜き作業

前記のように、“谷戸の池”に関しては、整備後の問題点がいくつも出てきております。水位が低いままであること、池の“落ち口(滝)”が流れない問題があります。池の“水抜き”の際、水漏れ箇所がないか点検することも必要です。公園課では、年明けくらいに工事後最初の“水抜き”を実施したいとのことでした。

3. “谷戸の池”流入口の泥対策と導水管

池に泥が堆積して埋まらないようにすること、池の水質維持のため、定期的に水門から水と泥を流す“水抜き”をすることになっています。しかし、水門から遠くに堆積した泥は、水門の吸引力が及ばないため、なるべく水門近くまで泥を誘導する方が良いでしょう。そのため、流入口に導水管を設置しましたが、前記のように充分には機能していません。導水管の口径を大きくすることを要請していますが、公園課では現在の“ジャバラ管”を“上方の開いたコルゲート管”(写真11 大きな“雨どい”のようなもの)に変えてはどうかとの提案がありました。



写真 11

4.水路のシジミ

土砂崩れにより、マシジミ(淡水にすむシジミ)、ヨシノボリ、ホトケドジョウなど貴重な生物が生息する水路の一部が埋まってしまいました。泥が水路の砂の上に堆積することで環境が変わってしまい、シジミの生息が難しくなります。公園課は現状の詳細を把握していないので、今後も基金によるモニタリングが必要であることを説明しました。

5.管理棟の問題

2 箇所予定されている施設(当初は4箇所)のうち、すでに完成した山ノ内側の管理棟には、道具置き場が無く、洗い場の水道の蛇口が一つしかありません。また来年度建設される山崎小学校側の施設についても詳細がまだわからないなど問題点が残っていることを指摘しました。開園後の利用の仕方やボランティア参加のあり方が話し合われていないことも積み残しの課題として残っています。

6.散策路の一部閉鎖と保全作業やモニタリングの必要性

台峯の基本計画にもあるように、谷戸の池の下流側から水路沿いは、生態系として大切な場所のため、一般の人が通れないことになっています。しかし、生態系を良好に保つための手入れ作業は必要です。放任しているとササや樹木の繁茂で水路がおおわれてしまい、ホタルやトンボの生息環境が悪化するからです。以前から要請していることですが、年に数回、基金などボランティア団体による立ち入り許可が必要なことを話しました。

理事 久保廣晃

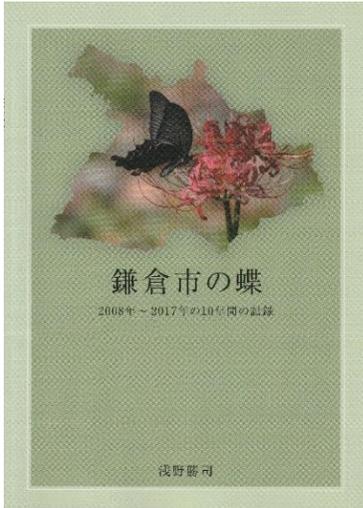
(なお、その後10月の台風19号でも数か所倒木等の被害が発生しましたが、15号ほどのことはなかったとのことです。編集担当追記)



堤防土手で満開のオオイヌタデ(本文 P.3 参照)

鎌倉市の蝶

浅野勝司さん



当基金会員の浅野勝司さんが、市内の蝶を長年調査・研究された成果を著作にして自費出版されました。A4版29頁カラー刷の美しい労作です。

8月18日の「山歩き」の場でもお話し頂きましたが、

来る11月23日(土、祭)の「会員の集い」ではじっくりとお話を伺う予定です。皆様是非お越し下さい。

以下、ご本人による調査・研究と著書のご紹介です。

私は現在81歳ですが、62歳で定年になったのち7～8年は、ヒメシジミやベニヒカゲを追って国内を飛び回り、冬季はマレーシアのボルネオ島やランカウイ島に滞在して蝶人生を楽しんでおりました。70歳を迎えた2008年に、もっと地元の鎌倉市の蝶を調べるべきではないかと思い観察を始め、2017年に10年目を迎えました。観察にあたりまして多くの方の助言や協力と情報の提供を頂き、その結果を「鎌倉市の蝶 2008年～2017年の10年間の記録」にまとめましたので、その冊子をもとに報告します。

鎌倉市は年に2000万の人々が訪れる観光地ですが、内陸部は100m前後の丘陵地が連なり、谷戸もいくつかあって緑も残されています。市内で蝶が多くみられる場所としては、鎌倉中央公園と台峯、広町緑地、十

二所と衣張山などがあげられます。私は毎年3月から11月初旬までの晴天の日を選び、鎌倉中央公園を中心に週2回のペースで、徒歩で蝶の目撃数を種類ごとに記録し、必要に応じて写真撮影や採集を行いました。観察をおこなった日数は10年間で約600日でした。

2008年から2017年の10年間に、鎌倉市内で棲息が確認された蝶は60種でした。この内、毎年普通に見られた蝶は47種で、毎年は見られませんでした。確認されたのが13種でした。地域別には1番多く見られたのが鎌倉中央公園と台峯で56種でした。また発生状況につきましては、普通にみられる16種について、発生消長をわかり易く模式図にして示しました。

また、過去にどのような蝶が生息していたのか文献で調べ、記録にはありましたがこの10年間で確認されなかったのはミヤマカラスアゲハ、スミナガシ、オオムラサキ、ミヤマセセリ、オオチャバネセセリ、ホソバセセリの6種でした。これらを合わせると、鎌倉市には今まで66種の蝶が棲息していたことになります。

冊子としては、つたないものですが、関東平野の南端の平凡な都市の記録として残しておいて良いものではないと思っています。

まだ冊子の残りがありますので、ご連絡いただければお送り致します。(ご希望の方は送料250円分切手を同封の上、〒247-0072 鎌倉市岡本1241-4 C-911 浅野勝司様まで郵便でお申し込み下さい)

以上

.....
鳥の名前よもやま噺

第五話 サシバ

.....
鳥に関心をもつようになると、何人かの人は「サシバ熱」と私たちが名づけている症状に罹ります。これはサシバという鷹の渡りの観察に、異常な熱意を持ってしまう病気です。

九月の終わりから十月の初めの頃、鷹の渡りの名所、伊良子崎の様に、一日に何千もの鷹が渡るのとは違って、地元の稲村ガ崎公園で三百程度の鷹が渡る日が1シーズンで、わずか一、二回あり、その時は見事な鷹柱が出来ます。

その時、その僅かな瞬間を求めて、素人目には渡る鷹がゼロに近い日々でもこの公園に数十人が集まります。私と廣晃(編集者註:当基金理事久保廣晃氏のこと)はその昔、携帯電話がない時代、アマ無線の免許を取って、三浦半島の武山で、房総方面からわたってくるサシバを観測し始めた仲間と連絡し、サシバを観察し始めました。当時の参加者はわずか数名でした。それが次第に増えて、今では事情を知らない一般の来園者が一体何事が起ったのか? みんな望遠鏡を持って空を見ているが、何を見ているのか? とシーズン中は不審に思われる事態になっています。

もし、サシバという鷹の渡りに関心のある方は、仲間の茂木一男さんの著作「サシバ通信」とか「60才からのホーク ウオチング」の一読をお勧めします。たちまち「サシバ熱」に感染してしまいます。ところが肝心の私自身は老化と共に、緑内障に白内障、加えて黒内障の発作まで起して、視力が衰え、あの素晴らしい「黄金の鷹」が見えなくなり、遂

に今年は稲村ガ崎の観測に一度も参加しませんでした。まことに年老いるという事実は悲しい現実です。

さて名前のお話です。カタカナで書く「サシバ」とは標準和名です。その意味については栄川省造著「鳥名抄」155頁(私家本)から引用させていただきます。昔、貴人が臣下を謁見する際、貴人の顔を隠すため、女官の差し出す長柄の大団扇を「翳 カザシ」と呼んだ。一種の威儀具で、その団扇には絹や雉の尾羽も張ったが、驚や多くは鷹の羽を用いたので、このために羽を使われる「鷹」を「サシバ」と呼んだ。「翳 カザシ」とは「翳羽 カザシバ」の略称で、サシバの成語は「サシバダカ」である。

同書には次にたくさんの俗称と、使われている地方名も調べてあります。

やごびーこ(山陰地方) 幼児は良く泣くとの意、きみーだか(大阪市泉南郡)、ほえぐさ(島根県)、むしだか(大分県)、しばさがし(愛知県喜多郡)、さしばだか(大阪府)、さしばからず(愛知県東春日井郡)、はやぶさ(新潟県)、こたか(北海道、関東地方、富山、奈良、広島、愛媛、長崎県) サシバばかりでなくハヤブサ、ツミ、ハイタカなどの総称。

この他の本にも、たか、あおさしば、あかさしば、たかこさい、からしば、しばさがし、などあります。

鳥と人とのかかわりあいの具合で、俗称の多寡が決まります。最も人気のあるカワセミの俗称など、数冊の本で調べただけでも、百三十余りもあり、とてもその解説は手におえるものではありません。

サシバの学名は *Butastur indicus* (Gmelin, 1788) といいます。1788年にグメリンが命名したものです。

Gmelin, 1788 年が () の中に入っているのは、グメリンの命名した後、分類上の結果、属名が変更されたからです。ちなみに日本では 1787 年が将軍に家斉、松平定信が老中となった年にあたります。



<サシバ> by N.Nishimura is licensed under CC A-SA 3.0, 2.5, 2.0 & 1.0

Butastur: サシバ属、1843 年に Hodgson がサシバ属を独立させました。Butastur の語意は「ノスリのような鷹」buteo はラテン語でノスリです。astur もラテン語で鷹の意味。

indicus: ラテン語でインドの、古代ギリシャ語でも indos と云うそうです。



Grey-faced buzzard (*Butastur indicus*) in flight, in Mount Noko, Hichisō, Gifu prefecture, Japan.

Photo by Alpsdake is licensed under CC A-SA 4.0.

サシバの英名は Gray-faced Buzzard-Eagle とか Eastern Buzzard-Hawk といいます。buzzard はノスリ属の鳥の総称、buzzard-eagle はサシバ属の鳥の総称です。

学名や英名を見るとサシバはヨーロッパにはいない鳥だと判ります。グメリンなどのアジアへ外征した生物学者が本国に標本を送って命名者となっています。

久保 順三

(写真はいずれも Wikipedia より)

< UMEKUSA >

昨年の春のことですが、ムクドリが民家のマントルピースの中にいました(写真:金網越しに)

2階の屋根の煙突口から、舞い降りてきたようです。そこまではよかったです、10メートル近い垂直離陸はできないらしく、閉じ込めてしまったのでしょう。

勿論、救出して放してやりましたが。

(本田)



.....
台峯の周辺 ⑱

遠足の途
.....

遠足は何故か前夜が当日より、また当日は途中が目的地より、心躍り記憶に残る。

昭和30年代、筆者の小学1年時の徒歩遠足は行先が葛原ヶ岡と分り、がっかり。



(左: 同時代の家族ハイキングの8ミリフィルムから。鳥居の立



つ弁財天旧参道、右端に幼き日の筆者ら兄弟が。後日左方坂下に隧道が開通。右: 鳥居は無く、車道は舗装された現在)

近すぎる。

当日はまず銭洗弁財天に詣でたが、今ある参拝用隧道は未貫通だったので、もう少し坂を登ってから山路の旧参道を辿って行った。次に葛原岡神社へ。やはりまだ現在の車も通る広い参道はなく、近年は散策路「あじさいの小径」として整備されている、脇の細い道を登った。



「帰り道 大船陸橋」1957年 小泉保哉氏
(美しい写真を提供下さった逗子市在住の氏に深謝)

その後年次が上ってバスとなった遠足は肝心の行先を覚えていないが、朝比奈の峠を越え磯子を通る時は決まってガイドさんが「左手の赤い屋根は」と案内する。皆一斉に美空ひばり御殿を目で追ったものである。

また、時には「このバスは京浜急行専用線を通って」と、いささか得意気なアナウンスがある。同社のバスだったのだろう。鎌倉山と大船や片瀬を結ぶこの道路は、現在は上をモノレールが走る以外に何の変哲もないが、昭和初め開通の、もと日本初の自動車専用有料道路である。以前一老婦人から、その頃取りたての免許で東京からドライブに来た、と伺ったことがある。全長僅か数キロのために遥々数十キロも車を転がして来たとは、さぞや目新しかったのだろう。

さて我々のバスがこの道路のどこをどう走ったかは記憶にないが、大船から南下したのなら、当時左下の写真のような風景があった筈である。右下の現在と比べると、なんと長閑だったことか。正面に天神山、左には台峯から続く山の端が微かに写っている。

それから約60年、すっかり老人となった元小学生は、毎月「あじさいの小径」を通して、その北に在る台峯に通っている。

本田 隆史



(左の現在。足元の横須賀線陸橋は架替え済。正面モノレール橋脚間に天神山。道路が左方への他に、右方へも)

「緑の洞門」その後

市は2月建設常任委員会で「平成29年度北鎌倉隧道安全対策検討業務委託報告書(概要版)」を開示、この本設工事の基本設計説明会を9月22日市民向けに開催しました。

報告書は、その後の調査結果を踏まえて、通行につき①小型自動車、②救急車、③歩行者のみ、とした従来の3案それぞれを修正したものです。➤

➤こうした中、9月29日「北鎌倉の洞門を守る会(北鎌倉史跡研究会)」が集会を開いて現状報告、また竹田市議、武野市議はじめ多くの参加、発言がありました。

即刻危険な県道迂回をやめ、本設工事に先立っての仮設工事を進めて、以前のように洞門を人が安心して通れるよう、という声が沸き上がったのです。集会での要請に、10/26(土)10:00～山ノ内公会堂において市側の説明会開催が決定されました。

当基金は引続き同会に協力して、北鎌倉の景観と安全を守って行きます。

活動記録	
(2019年4月～2019年9月)	
1 市公園課と打ち合わせ	6/27, 8/20
2 総会	5/25
①昨年度事業報告、②今年度事業計画が承認されました。①のうち会計に関しては概略右の通りです。	
3 理事会	4/7,5/5/5/25,7/6,8/4,9/1
4 台峯を歩く会(山歩き)	4/21, 5/19(みどりショップの日), 6/16,7/21,8/18,9/15
5 山の手入れ	4/20,5/18,6/15*,7/20,8/20*,9/14
6 モニタリング	4/20,5/5,5/18,5/25,7/20,8/4,8/17,9/1,9/14
7 ホタル観察会	6/8†
8 マツムシを聴く会	9/16
9 「なだいなだの学校同窓会」に理事長出席	6/9

*: 雨天または酷暑により中止

†: 雨天により中止の案内をするも、集合地点に來られた方がいたため、ご案内

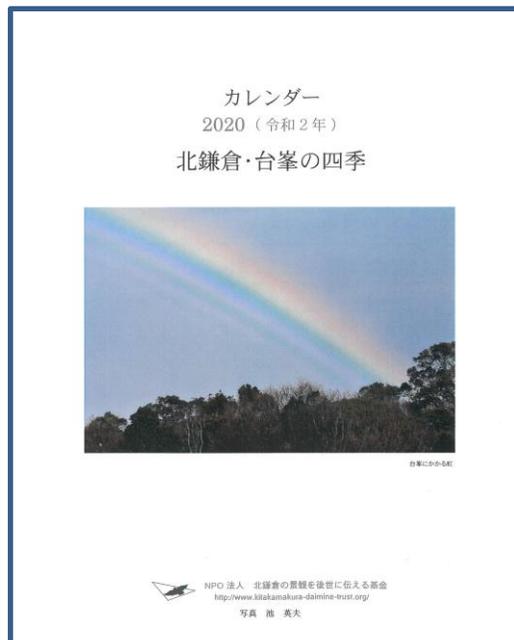
会計報告			
(2018年4月1日より2019年3月31日まで)			
特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金			
(単位:円)			
科 目	金 額	摘 要	
収 入	正会員会費収入	54,000	
	個人会員会費収入	157,500	
	団体会員会費収入	9,000	
	カレンダー収入	315,360	
	民間助成金収入	54,900	
	寄付金収入	0	
	受取利息	25	預金利息
	その他	169	保険料戻し他
	収入計	590,954	
	支 出	(緑地保全・管理事業)	
整備作業費		23,878	道具購入、研磨
賃借料		12,000	道具小屋借地料
損害保険料		2,275	
事務用品費		216	
小 計		38,369	
(普及・研修事業費)			
通信運搬費		62,645	会報他
印刷製本費		207,920	カレンダー、会報他
編集費		70,000	カレンダーデザイン
事務消耗品費		1,488	
賃借料		24,000	山歩き会場他
損害保険料		2,275	
会費		2,700	
雑費		216	
小 計	371,244		
(広報・出版事業費)			
広告宣伝費	50,000	鎌倉朝日	
小 計	50,000		
(交流・協力事業費)			
負担金	3,000		
渉外費	5,000		
小 計	8,000		
(管理費)			
通信運搬費	9,410	会費入金費用	
事務消耗品費	0		
賃借料	25,000	総会理事会会場	
会費	0		
雑費	1,260		
印刷費	0		
小 計	35,670		
支出計	503,283		
經常収支差額	87,671		
緑地保全積立金繰入	0	寄付金相当額	
当期収支差額	87,671		
保 有 資 産	現金	314,000	うち720,000は緑地保全積立金として保有(期末時点)
	当座預金	3,184,584	
	普通預金	17,095	
	定期預金	288,572	
計	正味財産	3,804,251	

監事の林雄一郎先生より適正との監査報告書を頂戴しております。

<台峯カレンダー>

池 英夫さんの美しい写真によるカレンダー—2020 年用(右)を発行します。今回も鎌倉市から後援(鎌み第 418 号)を頂いています。ご希望の方は、

- ①近く販売開始予定の市内書店等(島森、大里、たらば、あらいや)にて@1千円(税込)でご購入
- ②切手@1千2百円(税・送料込)×部数分を添えて事務局まで郵便でお申込み
- ③近くご請求しますが、来年度会費お支払い時に、@1千2百円(税・送料込)×部数分を加算して郵便振込でお申込みのいずれかにより、ご入手ください。



<会員の集い ご案内>

年に一度会員の皆さまに台峯の現状や今後についてご説明やご報告を行い、また皆様からご意見を伺う場です。

今年は 11 月 23 日(祭)13:30~山ノ内公会堂にて。本誌P. 7の浅野勝司さんから蝶のお話も伺える予定です。

詳しくは同封のご案内を御覧下さい。

会報40号

発行日 2019年10月23日
発行者 特定非営利活動法人
北鎌倉の景観を後世に伝える基金
事務局 〒248-0011 鎌倉市扇が谷 3-2-12 本田方
HP www.kitakamakura-daimine-trust.org
写真 久保廣晃・本田隆史

<編集後記>

「東の鎌倉、西の芦屋」と、かつては高級住宅地として並び称されたいらしい。以下は、近所のご主人の話。

神戸の女性と結婚したら、最寄駅は芦屋とのこと。里帰りの切符は、「鎌倉⇄芦屋」という、さぞやんごとなきご令室が白魚のような指に挟んで駅員にかざすべきものとなった。

では、わが女房殿はというと、右手に長男、左に二男、娘は抱っこし、背にリュック。やむなく切符は口に咥えて、

「駅員はあん、お願^{ねはあ}いしはあす～」

これじゃあ、まるで女中さんの屋敷替え。



<復路の乗車券 部分>